佳作

ルビーのえがお

福井県 福井市豊小学校一年　遠藤 陽向

ルビーは、おじいちゃんのいえにいるトイプードルです。ルビーはいつも、おじいちゃんにだっこされていてかわいいです。

わたしがあかちゃんのときは、ルビーにおもちゃをなげたり、しっぽのけをひっぱるので、ルビーはわたしのことがこわかったそうです。わたしが四さいのとき、ルビーはちがとまらなくなるびょうきになって、とつぜんめがみえなくなってしまいました。めがみえなくなってこわがりになったルビーは、おおきなおとがなったりとつぜんさわると、びっくりしてほえたり、しっぽをまるめてにげてしまいます。めがみえないけれど、みみをよくうごかしておとをきいているので、わたしがおじいちゃんのいえにつくと、いつもうれしそうにほえておじいちゃんにしらせてくれるばんけんです。

おとうさんが、

「ルビーにさわるときには、せなかにさわるよとか、あたまをさわるねといってからさわるんだよ。」

とおしえてくれたので、ゆうきをふりしぼってふわふわのせなかをぱっとさわろうとすると、

「キャンッ。」

となったので、わたしもびっくりしてないてしまいました。

おかあさんとおふろにはいっているときに、

「めをとじてまっくらななかで、とつぜんおおきなこえをだされたりさわられたら、どうおもう。」

といわれたので、ゴールデンウィークにかぞくでいったおばけやしきをおもいだしました。おばけやしきでわたしは、ずっとおとうさんにくっついていました。まっくらだし、どこにおばけがいるかわからなくてとってもこわかったです。それからは、ルビーにあんまりちかよらないで、よってきたときにはじっとうごかないようにしたら、わたしのそばにきて、すわったりねるようになりました。

おぼんに、おじいちゃんがルビーになしをたべさせていたので、

「わたしもやってみたい。」

といいました。でも、またおおきなこえでなかれたり、かまれたりしないかなぁとこわいきもちがありました。おかあさんが、

「ルビーはやさしいからかまないよ。」

というので、なしをひだりてにもって、みぎてをだして、

「おて。」

というと、ルビーがわたしのてのにおいをかいで、おてをしてくれました。ルビーのては、にくきゅうがあってふわふわしていて、とてもきもちがよかったです。かまれないかそわそわしたけれど、はながふれたのがつめたくってくすぐったかったです。わたしは、てからなしをたべてくれたことがとてもうれしかったし、ルビーもすこしえがおになったきがしました。